

# 時事解説

◇昭和23年7月8日 第3種郵便物認可◇昭和53年1月24日 国鉄首都特別扱承認新聞紙第519号◇毎週2回火・金曜日発行(但し祝日を除く)◇発行所 東京都千代田区日比谷公園1番3号 時事通信社 電話(03)591-1111◇郵便番号100 〇時事通信社1979

## 時事通信

### “ナンバーワン”の実感



九月初旬から約二週間、アメリカ、カナダへ出張した。本来の目的はワシントンの大西洋評議会(The Atlantic Council)とのアジアの安全保障にかんする共同研究プロジェクトの定期会議への出席で、今回は私が主報告者になって八〇年代の中国と中ソ関係を展望するというハードな重荷を背負っていた。だが同時に、私にとってアメリカは二年ぶりだったの

で、当然、最近のアメリカの変化を知ることになった。一口に感想をいえば、「ジャパン・アズ・ナンバーワン」をつくづく実感したことである。こうした印象は、ホテルといひ、ニューヨークの地下鉄といひ、バス、タクシー、飛行機その他もろもろのサービスに接しただけで、まさに実感としてそう思うのだが、乗り物、食べ物、街頭の光景、その他、東京がいかに行き届いた都会であるかが歴然とする。それだけではない。ニューヨークに滞在していてTVを入れると、ニュースはローカルな犯罪の報道ばかりなのに、日本では、世界のすみずみに起る国際問題

を詳細に解説している。先方の大学の友人たちに聞いてみると、いまや日本の大

学教授の年収は、アメリカのそれをはるかにしのいでいる。また、いつものことではあるが、子供たちになにか土産を買おうと思っても、すべてが日本にあり、日本の品物の方がはるかによいので買うべき土産物がない。成田空港からのリムジン・バスは、アメリカのそれに比べたら、なんと快適で安全でスムーズで親切なことか。タクシーに乗れば、きれいに掃除してある車がスルスルと路上を走るではないか。しかも料金はすべてメーターできちんとしている。私自身、いまから十数年前、初めてアメリカへ行ったときには、まさにアメリカのすべてが別世界のように目を見張ったものであった。この十数年間のわが国の成功は、こうして、いまや歴然として

る。アメリカでも何人かのアメリカの知人、友人がすでに読んでいて、さまざまな感想を聞くことができたが、本書は、たんなる際物では決してなく、氏の永年の日本研究の誠実な努力に裏打ちされたものであるだけに、アメリカでは売れないだろうとの大方の予想とは違って、アメリカでも着実に読者を獲得するだろうと私は思っている。

ただ問題は、われわれ日本人の多くが、政治家から報道人そして国民一般にいたるまで、ヴォーゲル氏に指摘されるまでは「ジャパン・アズ・ナンバーワン」をみずから積極的に自覚しようとしなかつた小人意識であり、依然として半信半疑で、わが国が国際社会にたいしてもっている責任分担を十分に認識せず、わが国の大学や業界に典型的に見られる「閉ざれた社会」を一向に開こうとしないことである。ナンバーワンの実感をわれわれは、もっと切実に考えてみなければならぬと思う。(中嶋頼雄)

#### 主な内容

- 確立されたわが国核燃料サイクル……2
- これで原子力先進国の仲間入り
- 転機に立つ米労働界……9
- 危機が露呈した非同盟会議……12
- カストロ派とチトール路線が激突